

# 深谷けんじ

2021年  
春  
第8号



## 深谷けんじ プロフィール

1974(昭和49年)年9月3日生まれ 46歳  
川崎市出身  
東京農業大学第三高等学校卒  
創価大学文学部社会学科卒  
公明党県企業局長・青年局次長  
産業労働企業委員会 委員  
危機管理・大規模災害特別委員会 委員  
新型コロナウイルス感染症対策  
特別委員会 委員



▲3月24日 埼玉医科大学総合医療センターの仮設  
専用医療施設を視察する深谷けんじ(右端)



▲施設内に設置されたCT装置  
堤晴彦病院長(左)・矢倉氏(中央)、深谷けんじ(右)

# 新型コロナ 現場で闘う医療従事者に感謝

新型コロナウイルス感染症患者用の病床を設けた医療機関への緊急支援（1床あたり重症者用1,950万円・その他950万円）では、2月末の申請時点で即応病床（受入要請があればいつでも即時受入れ可能な病床のこと）であることが要件になっていました。しかし、仮設専用医療施設の整備を進めていた埼玉県の民間医療機関（6施設・135床）では、完成予定が3月中となっており補助対象外に。「どんなに工事を急いでも2月中の完成は無理だ。このままでは支援を受けられない。」と、医療現場から悲痛な声を伺いました。

**深谷けんじ**は、最前線で必死に闘ってくださっている医療機関に支援が行き届かないことは絶対にあってはならない、必ず支援を届ける。との強い決意を持って県に訴え続けるとともに、この緊急支援が国の制度であったことから、

矢倉かつお参議院議員と連携し、2月3日の内閣・厚労委員会で質問（公明新聞記事参照）。矢倉氏の鋭い追及により、田村憲久厚労大臣から「**県が2月末までに受入れ病床としての割当てが確定していれば、補助対象としていく。（要旨）**」との答弁を引き出し、同日、厚労省から都道府県へ通知されました。これにより、3月中旬に完成する仮設専用医療施設を建設した医療機関への支援が決まりました。

3月15日には、埼玉医科大学総合医療センターで行われた、医療従事者へのワクチン接種の現場を視察。24日には、同センターに完成した仮設専用医療施設を、堤晴彦病院長、矢倉かつお参議院議員とともに視察。深谷けんじは、引き続き医療現場の声をもとに、コロナ対策に全力を尽くしていきます。

# 病床補助 弾力的に運用

矢倉氏に政府「仮設プレハブ」巡り

参院内閣、厚生労働省委員会は3日、新型コロナウイルス対策の実効性を高めるための特別措置法等改正案に関する連合審査会を開き、公明党の矢倉克夫氏が質問に立った。

矢倉氏は、新型コロナウイルス患者を入院で受け入れるための即応病床を設けた医療機関への緊急支援に関し、今月末の申請期限の時点で実際に存在していることが要件とされている現状に言及。即応病床としてプレハブ仮設病棟の整備を進めて

いる埼玉県の間間医療機関では、稼働開始が3月末になるケースもあるとして、これらも「補助対象にするべきだ」と訴えた。

田村憲久厚労相は「対象と考えていく」と弾力的に運用する方針を述べた。



質問する矢倉氏13日 参院内閣・厚生連合審査会



▲2月8日付 公明新聞

# 新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター開設

## 埼玉県コールセンター

**☎ 0570-033-226 (ナビダイヤル)**

**対応時間** 土日祝含む24時間対応

**対応内容** 接種後の副反応等について、医学的知見が必要となる専門的な相談など、市町村では対応困難なお問合せへの対応等

## 聴覚障がいの方へ

**FAX 048-830-4808**

ファックスによるご相談の場合、回答までにお時間をいただく場合があります。

※接種券に関することや接種の方法等については、川越市の相談窓口にお問合せください。

※ワクチン接種後、しばらくしてから慢性的な麻痺や痺れなどの症状が現れた場合、まずはかかりつけ医や接種した医療機関に御相談ください。かかりつけ医等では対応が困難な場合には、県の指定する専門医療機関の紹介を受けてください。専門医療機関では、相談や受診の調整を行うほか、かかりつけ医等からの相談も受けております。

## 川越市 新型コロナワクチンコールセンター

川越市民の方や医療機関からの接種手続き等に関するお問い合わせに対応しています。

 **0120-385-015**

**受付時間** 毎日午前9時から午後5時まで

**対応内容** 接種券に関することや接種の方法等について

## 厚生労働省 新型コロナワクチンコールセンター

## コロナワクチン施策の在り方等に関するお問い合わせ

 **0120-761-770**

**受付時間** 毎日午前9時から午後9時まで



# 新型コロナ対策、防災・減災に重点

3つ目の柱は、埼玉版SDGsの推進をはじめとした「持続可能で豊かな未来への投資」に取り組みます。令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題として、危機感と緊張感を持って対応していきます。

# 入間川流域緊急治水対策プロジェクト

**凡 例**

- 浸水範囲
- 遊水池・高台等整備
- 河道掘削・樹木伐採
- 決壊箇所
- 整備検討
- 堤防整備

- ・自治体との光ケーブルの接続
- ・越水・決壊を検知する機器の開発・整備
- ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置
- ・台風第19号の課題を受けたタイムラインの改善
- ・他機関・民間施設を含めた避難場所の確保
- ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
- ・広域避難計画の策定
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・水のう等、水防活動資材の確保
- ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施、排水ポンプ車の配備
- ・防災メール等を活用した情報発信の強化
- ・防災行政無線の戸別受信機整備等

**声を力に 小さな声を、聴く力。地域要望が実現**

